

■・BASF

We create chemistry

ホウレンソウケナガコナダニ用殺虫剤 サンケイ

コテツ[®]ベイト

® : BASF社の登録商標



ホウレンソウケナガコナダニ

2021年
サンケイ化学株式会社

コテツベイト[®]の概要

登録番号 : 農林水産省登録 第24439号

品名 : コテツベイト

農薬の種類 : クロルフェナピル粒剤

有効成分の種類および含有量 :

クロルフェナピル・・・0.5% [殺虫剤分類：13]

物理化学的性状 : 淡褐色細粒

有効年限 : 4 年

規格 : 2kg×8

毒性 : 普通物 (劇物に該当しないものを指している通称)



《薬剤の外観》

登録内容と注意事項

■ 適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルフェナピルを含む農薬の総使用回数
ほうれんそう	ハウレンソウ ケナガコナダニ	3～6kg /10a	は種時～2葉期まで 但し、収穫14日前まで	1回	全面土壌 散布	1回

■ 使用上の注意事項

- ・ 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- ・ 所定量の薬剤を圃場全体に均一に散布してください。
- ・ ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
- ・ 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

特長

① ホウレンソウケナガコナダニに優れた活性

有効成分のクロルフェナピルがケナガコナダニに対して優れた活性を示します。

② 誘引・摂食による食毒作用で防除

土壌表層に生息するケナガコナダニを薬剤(ベイト)におびき寄せ、摂食させることで効果的に防除できます。

土壌表面散布なので、ホウレンソウケナガコナダニの生育深度に近く、効率的に防除することができます。

特長

③ 薬剤の処理が簡便で使いやすい

土壌表面に散布するだけでよいので、混和する必要がなく、簡便に処理することができます。

また、連棟ハウス等で生育段階ごとに栽培している場合、土壌くん蒸剤(本種防除目的)が使用できなかったり、収穫前に薬剤のドリフトの懸念が考えられる場面で使いやすい薬剤です。

④ 優れた残効性

本剤は、は種時～2葉期にかけて全面土壌散布することで長期間被害を抑制することができます。

作用性

■ 有効成分の作用性

- ・ クロルフェナピルは害虫の体内で代謝活性化され、呼吸系を阻害します。呼吸系の中でもミトコンドリア内でのエネルギー生成を阻害します。
- ・ 殺虫剤分類(IRACコード)は13(プロトン勾配を利用する攪乱する酸化リン酸化脱共役剤)に分類され、唯一の系統であることから薬剤抵抗性管理にも有効です。

■ ベイトの作用性

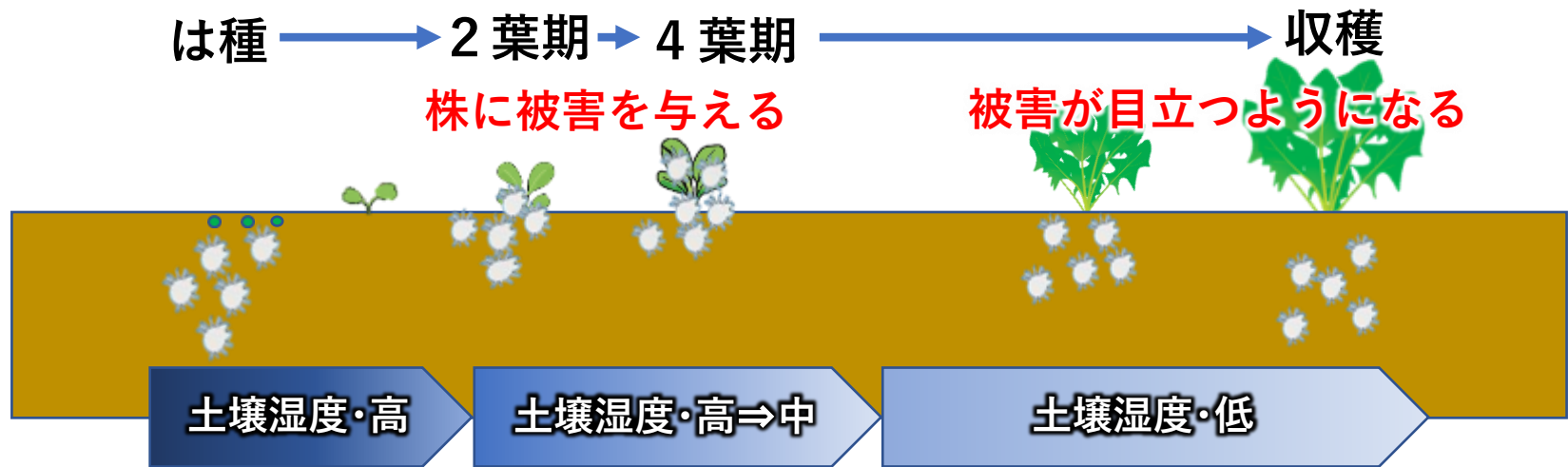
- ・ 土壌表層からほうれんそうの株へ移動するコナダニを誘引し、本剤を摂食することによる食毒作用で効果を発揮します。食毒により高い活性を示します。

ハウレンソウケナガコナダニの被害

被害発生概要

- ハウレンソウケナガコナダニは施設栽培で密度が高まる傾向があります。適温は20℃前後であるため、春期と秋期の施設栽培では大きな被害を生じることがあります。
- 土壌中で増殖した個体群がほうれんそうの新芽部分に侵入し食害します。土壌中に生息する個体群がほうれんそうの株に移動して寄生し始めるのは2～4葉期頃で、被害は8葉期頃から目立ち始めます。
- 被害は葉に小さな穴やこぶ状の小突起を生じ、正常に展葉せず光沢を帯び、奇形となります。
- 被害の激しい株は葉が縮れたようになって褐変し、芯止まりとなり、生育が抑制されます。
- 土壌中の生息密度が高い場合、幼芽を食害して発芽障害を起こすこともあります。

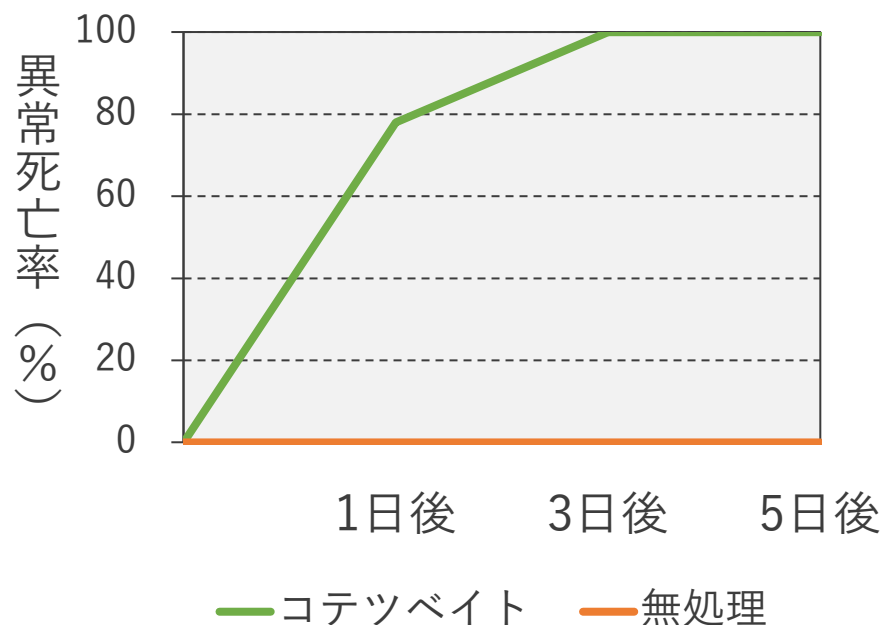
ハウレンソウケナガコナダニの移動モデル



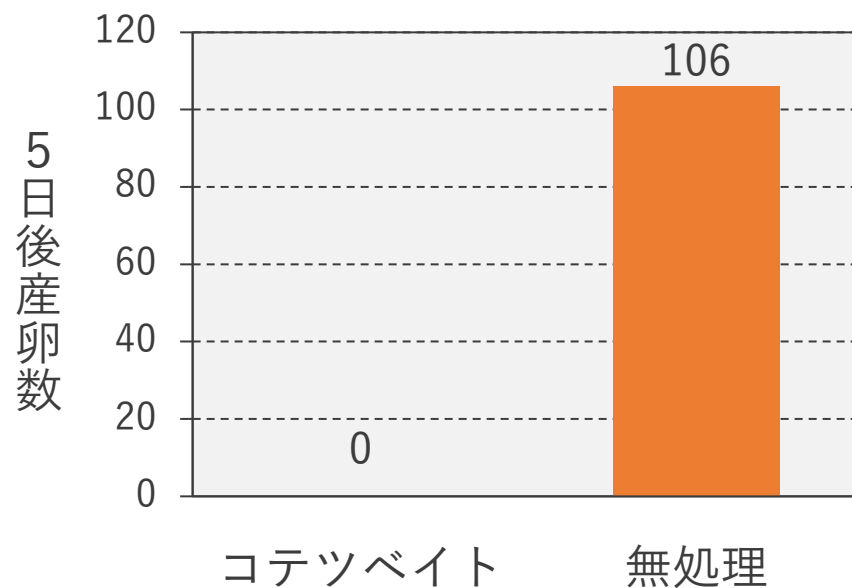
- ほうれんそうの栽培施設内において、ハウレンソウケナガコナダニはおおよそ深さ1cmの表層に多く認められますが、生育極初期(発芽期前後)では深さ1～5cmの下層にも比較的多く生息しています。
生育初期は灌水量が多いため、徐々に土壌表層付近に生息域が上がってきます。
- 2～4 葉期頃は土壌湿度が高いことから、多くの個体群が土壌表層に生息するようになります。それら個体群は、ほうれんそうの株に移動・寄生し、株に被害を与えます。
- 4～6葉期になると表層の密度が増加して株への寄生が高まります。2～4葉期には目立った被害は認められませんが、8～10葉期になると、展開葉への被害が認められるようになります。

コテツベイトの殺虫活性

死亡虫数調査



産卵数調査



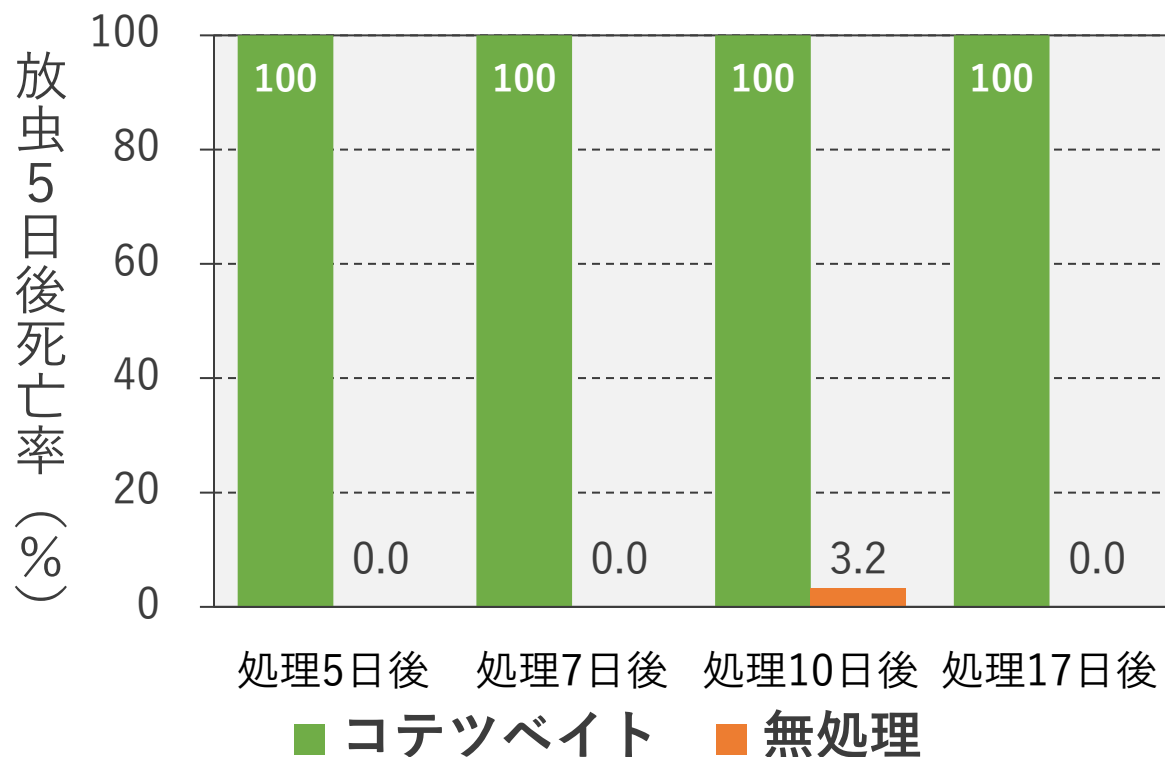
試験実施：2013年 サンケイ化学株式会社

【試験方法】

- ・ 1.5mlのマイクロチューブ容器にベイト剤1粒を入れ、ケナガコナダニ10頭を放虫。3連制。
- ・ 経時的に死亡頭数と産卵数を調査。
- ・ 無処理区には有効成分を添加していない同処方の資材を処理。

【供試害虫】 ホウレンソウケナガコナダニ（奈良県個体群）

コテツベイトの残効性



2016年 サンケイ化学社内試験

【試験方法】

施設ほうれんそう栽培圃場にベイト剤を処理し、薬剤散布5、7、10、17日後にベイト剤を圃場から回収（回収までの灌水は農家慣行）。

回収したベイト剤1粒を1.5mlのマイクロチューブ容器に入れ、ケナガコナダニ10頭を放虫。3連制。

放虫5日後に死亡頭数を調査。無処理区には有効成分を添加していない同処方の資材を処理。

【供試害虫】

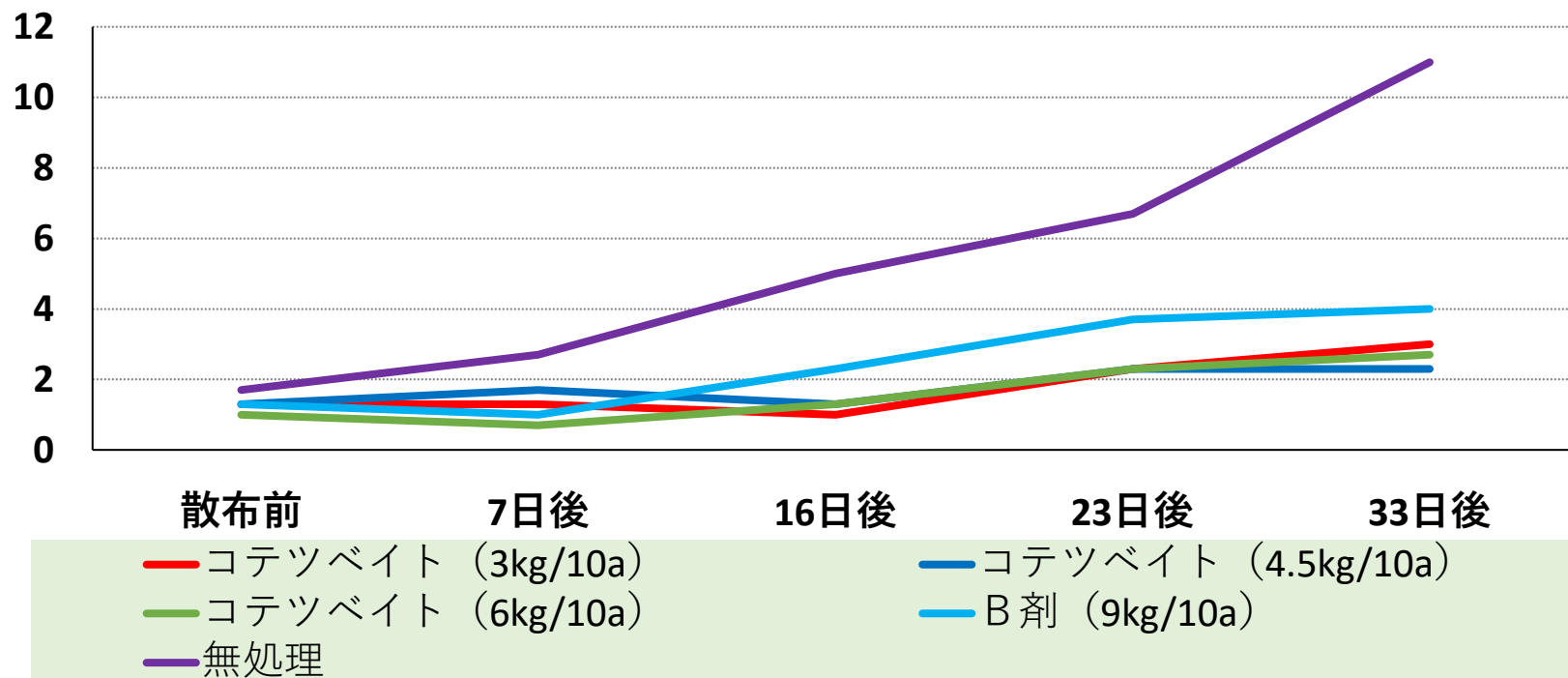
ハウレンソウケナガコナダニ山口県個体群

薬剤散布17日後においても高い殺虫活性を保持していることを確認

ハウレンソウケナガコナダニに対する効果

土壌中密度

は種時に全面土壌散布



秋田県農業試験場（2019年：秋田県秋田市 農試圃場内ハウス）

供試作物：ほうれんそう（品種：ドンキー）8㎡/1区（25株）3反復

は種日：2018年8月23日

対象害虫発生状況：少発生（放虫）

処理日：コテツベイト（8月23日：は種時1回全面土壌散布）

B 剤（8月23日：は種時1回全面土壌混和）

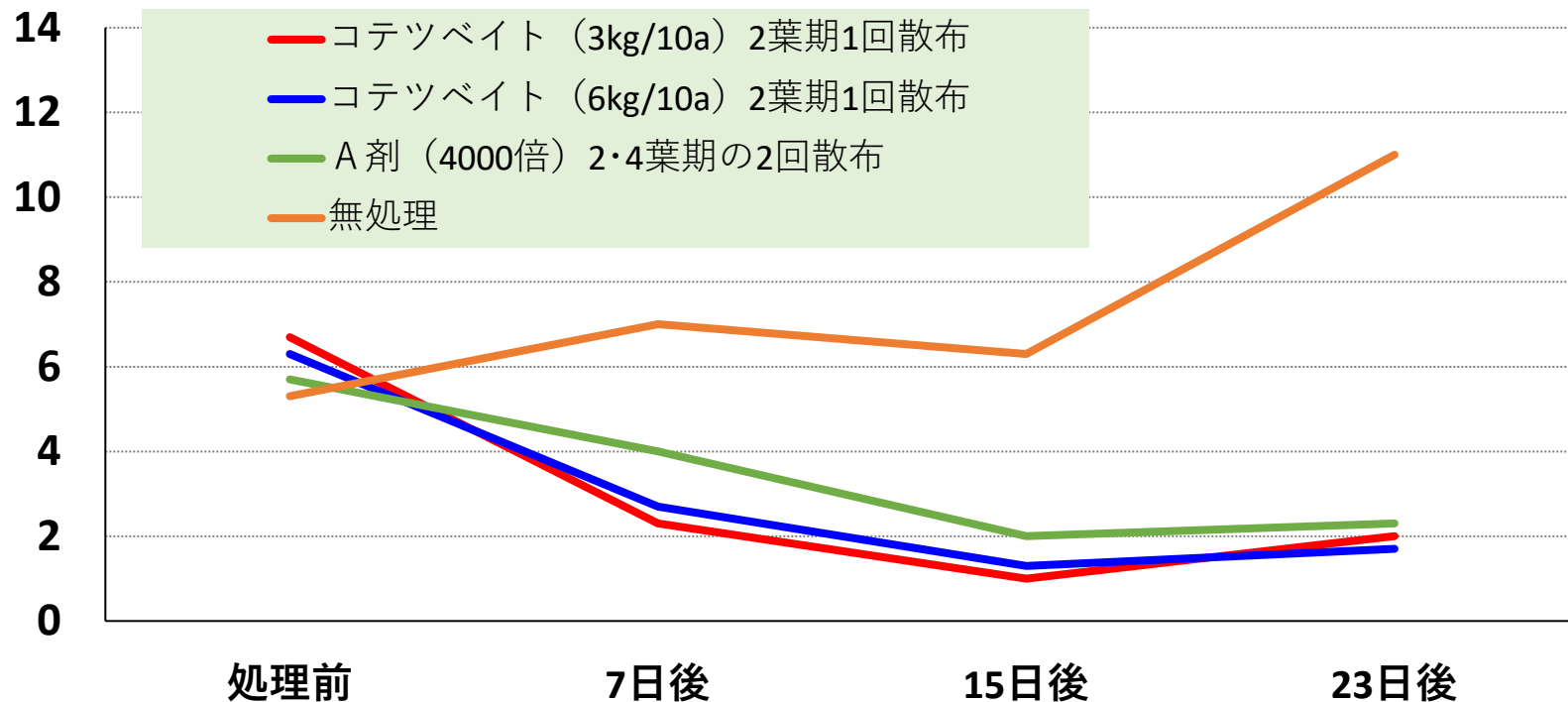
調査日：散布前（8月23日）、散布7日後（8月30日）、散布16日後（9月8日）、散布23日後（9月15日）、散布33日後（9月25日：収穫期）

コナダニの密度：酵母トラップ（春日方式）4 地点/1 区

ハウレンソウケナガコナダニに対する効果

土壌中密度

2 葉期散布



秋田県農業試験場 (2018年：秋田県秋田市 農試圃場内ハウス)

供試作物：ハウレンソウ (品種：サンホープセブン) 8㎡/1区 (25株) 3 反復

は種日 : 2018年8月30日

対象害虫発生状況：少発生 (放虫)

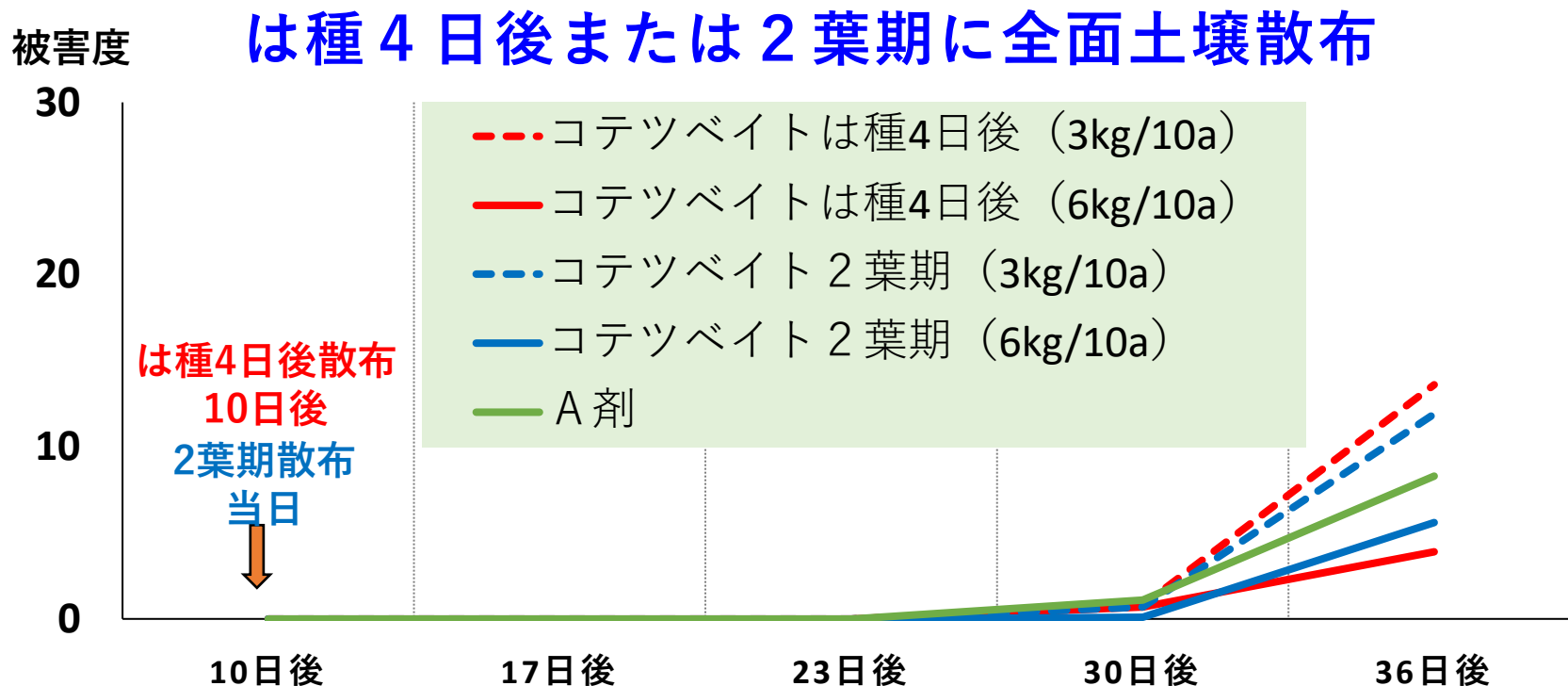
処理日 : コテツベイト (9月8日：2 葉期1回全面土壌散布)

A 剤 4000倍 (9月8日 [2 葉期]、9月15日 [4 葉期] の2回散布、散布水量300L/10a)

調査日 : 散布前 (9月8日)、散布7日後 (9月15日)、散布15日後 (9月23日)、散布23日後 (10月1日)

コナダニの密度：酵母トラップ (春日方式) 4 地点/1区

ホウレンソウケナガコナダニに対する効果



山口県農林総合技術センター（2018年：山口県周南市 生産圃場〔施設〕）

供試作物：ほうれんそう（品種：トラッド7） 4m²/1区（260株） 3反復

は種日：2018年3月8日

対象害虫発生状況：少発生

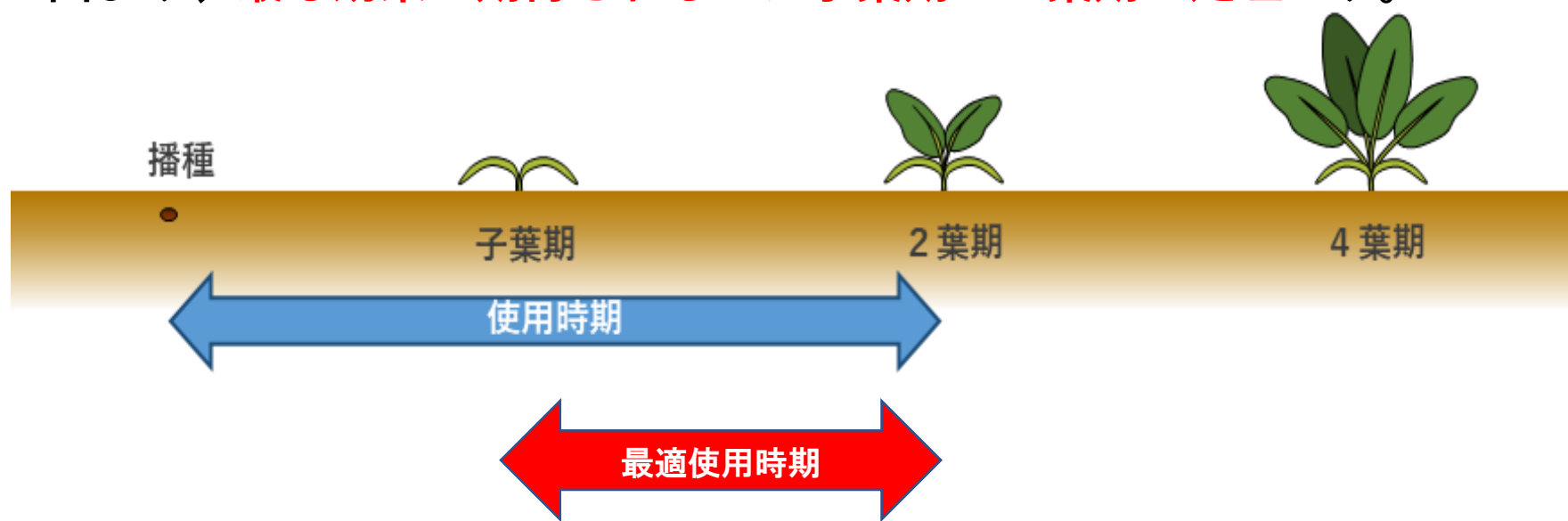
処理日：コテツベイト（**3月12日：は種4日後全面土壌散布**、**3月22日：2葉期全面土壌散布** 各1回処理）
A 剤 4000倍（3月22日、4月4日の2回散布、散布水量300L/10a）

調査日：は種4日後散布・10日後、同17日後、同23日後、同30日後、同36日後。

上図10日後は2葉期散布、17日後は2葉期散布・7日後、23日後は2葉期散布・13日後、30日後は2葉期散布・20日後、36日後は2葉期散布・26日後であることを示す。

上手な使い方 1

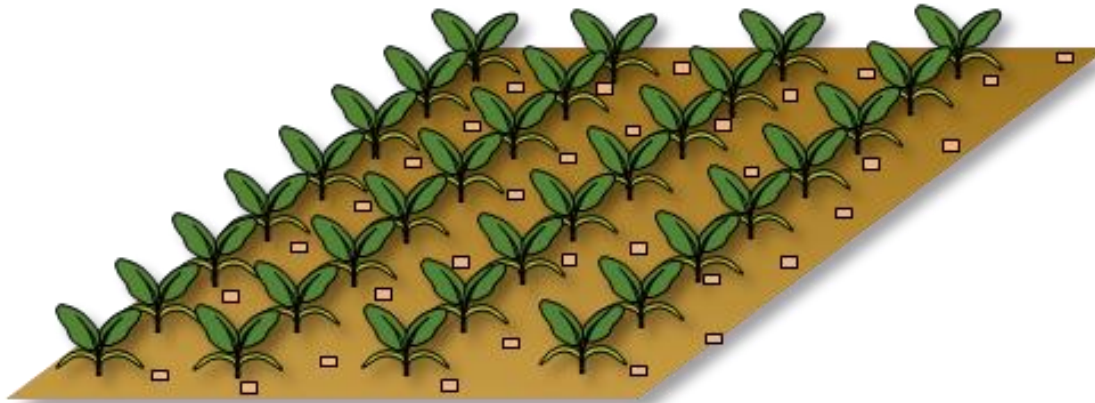
■コテツベイトの使用時期としては、は種～本葉2葉展開期まで使用できます。但し、は種時の散布も効果はありますが、ケナガコナダニの生態面より、**最も効果が期待されるのは子葉期～2葉期の処理**です。



■登録上の使用量は3～6 kg/10aですが、前作で被害が多発した圃場では効果の安定性から **6 kg/10aの処理**をおすすめします。

上手な使い方 2

- **土壤表面に均一になるように散布**してください。なお、作物の上から散布しても問題ありません。**土壤と混和しないでください。**



- 施設栽培における灌水による効果への影響はほとんど認められませんので、通常通り灌水管理をして問題ありません。
- は種作業により土壤中に薬剤が埋まってしまうと本来の効果が十分発揮されない可能性があるため、は種時に処理を行う場合は土壤の表面に薬剤が分布するよう全面土壤散布してください。